

会 議 記 録	
会 議 の 名 称	予算特別委員会 産業建設分科会 会議場所 第2委員会室 担当職員 駒田
日 時	令和6年3月14日（木曜日）
	開 議 午前 10 時 20 分 閉 議 午後 4 時 00 分
出席委員	◎林、○片山、法貴、山木、小川、齊藤、木村
出席理事者	【産業観光部】松本部長 【商工観光課】玉井課長、谷主幹、橋本商工振興係長、松浦観光振興係長 【農林振興課】高木課長、中川副課長、荒美副課長、向出担い手支援係長、 綾野森林・鳥獣対策係長 【農地整備課】鹿島課長、中川副課長、平井土地改良係長 【農業委員会事務局】大石事務局長、小栗次長
出席事務局	駒田主査
傍聴者	市民0名 報道関係者0名 議員0名

会 議 の 概 要

10:20

1 開議

（林分科会委員長あいさつ）

（事務局説明）

2 付託議案審査（説明～質疑、市長質疑項目の抽出検討）

〔産業観光部入室〕

・産業観光部長あいさつ【農林振興課・農地整備課・農業委員会】

（基本方針等）

産業観光部が所管する令和6年度当初予算の重点事項について御説明申し上げます。第5次亀岡市総合計画に基づき、まちの活気とにぎわいづくりに向け、地域経済発展の原動力となる産業・農業・観光を連携させた各種事業を展開することで、本市三大観光とあわせた新たな観光客誘致と地域の活力・にぎわい創出に取り組むことを基本に予算計上させていただいた。商工業振興においては、産学官連携により地域創生を推進するため、研究開発の拠点となるオープンイノベーションセンター・亀岡の運営をはじめ、サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業で培ったノウハウや関連企業とも連携する中で、新規ビジネスに挑戦する起業家等が育つよう、起業家支援コミュニティの構築と事業伴走支援を行う「かめおか共創支援プロジェクト」を実施する。また、京都縦貫自動車道篠インターチェンジ及び亀岡インターチェンジ周辺における産業立地基盤を整備することで新たな企業誘致を進め、地域経済の活性化と雇用機会の創出などを支援していく。観光振興においては、大阪・関西万博を見据えた国内旅行誘客、インバウンド誘客に対応する効果的な出展や催事参加をはじめとした各種事業を通じて、観光振興、地域経済活性化、交流人口の増加につなげていく。また、保津川における舟運事業等の安全対策や環境保全を推進するため、保津川有償舟運安全対策協議会を設立する中で新たに支援を行っていく。農林業振興において

は、第4次亀岡市元気農業プランに基づく総合的な施策を推進するとともに、オーガニックビレッジ宣言に基づくオーガニック農業スクールにおける育成プログラムの実施により、有機農業を志す人材を育成するとともに、市立小学校・保育所・こども園での有機米給食の導入支援など、地球環境と人に優しく持続可能な循環型の有機農業を推進していく。また、農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴い、将来の農地利用の姿を明確化する地域計画の策定、豊かな森を育てる森林環境を整備する森林経営管理制度の推進や、先進的な林業機械の導入支援により、効率的な森林整備システムの構築・普及・定着を推進していく。さらに、国営緊急農地再編整備事業亀岡中部地区及び農地中間管理機構関連農地整備事業神地地区の着実な進捗に努めるとともに、農地利用の最適化及び農地法等に基づく法定業務の適正・円滑な執行に努めていく。なお、これらの事務事業については、昨年の予算特別委員会をはじめ、本年度のこれまでの常任委員会において御指摘・御要望いただいた事項、決算特別委員会でいただいた御意見などを反映させた中で事業化している。また、本日の審査の中でもこれらに関する事項や予算について、御説明させていただきたいと思うので、よろしくお願いする。この後、午前中は農林部門、午後からは商工観光部門について、各課長のほうからそれぞれ詳細を説明させていただくので、慎重に御審議いただいて、御賛同賜るようお願い申し上げます。

10:28

・第1号議案 令和6度亀岡市一般会計予算（産業観光部所管分）

【説明】

・担当課長順次説明（6款農林水産業費・11款災害復旧費）

11:43

<休憩 11:43～13:00>

【質疑】

<法貴委員>

農業事務経費、高温対策支援事業の補助対象機器等について説明願う。

<農林振興課長>

農産物被害を緩和させることを目的として、猛暑に備えるための機器・資材が対象である。

<小川委員>

農業事務経費、市有地境界確定業務委託料について説明願う。

<農林振興課長>

天川共同作業所の解体撤去に当たり、一部の境界が不明確な箇所について境界確定を行うものである。境界確定後、売却可能な状態になれば普通財産に移管する予定である。

<片山副委員長>

農業事務経費の高温対策支援事業に関連して、亀岡市域で高温障害による被害はどの程度把握されているのか。

<農林振興課副課長兼営農推進係長事務取扱>

小豆などの豆類が特に被害を受けており、収穫時期が遅くなったほか、収量も減少

したと聞いている。

<片山副委員長>

小豆などの豆類は露地栽培が多いため、支援対象となる機器でどのように対応できるのかが難しいと感じるがどうか。

<産業観光部長>

高温対策支援事業は、高温障害の報告が昨年度多かったことから京都府の新規事業として実施されるものである。ハウスと露地で高温障害の対策を新たに導入される際の補助であり、農業者からの要望を調査している段階である。今後は農業者への情報提供に努めてまいりたい。

<齊藤委員>

色彩選別機が使用できれば悪い米を排除でき、高温障害でも対応できるのではないかなと思うが、導入に係る補助はないのか。

<担い手支援係長>

水稻の場合は京都府事業で補助制度があるが、面積増加の要件などがあり個人の農業者は活用しづらい状況である。認定農業者、認定新規就農者、有機JAS認証者であれば、亀岡市が実施する亀岡市地域担い手応援事業を活用いただきたい。

<齊藤委員>

亀岡市地域担い手応援事業の補助額は。

<産業観光部長>

対象事業費の2分の1以内で、補助上限額は150万円である。補足であるが、集落営農で乾燥調製施設を導入される事例があり、いわゆるカントリーを各集落営農で取り組まれることがある。JAのカントリーが市内で1機のみとなったため各集落営農で取り組まれる傾向にあるが、その場合は工程の中に必ず色彩選別機を導入されている。集落営農型にシフトしていく中で、乾燥調製施設が導入される事例があれば、色彩選別機も導入してほしいといった指導も含めて京都府と連携していきたいと考えている。

<山木委員>

食農ブランド事業経費のにぎわいづくり事業において、令和5年度はJR亀岡駅北で食フェスを実施されたが、令和6年度も同様に実施されるのか。また料理塾の経費が減少した理由は。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

にぎわいづくり事業で実施するフェスタについて、現時点では令和5年度と同様にかめきたサンガ広場で開催する予定であり、日程は調整中である。料理塾については、令和5年度の途中までは行事食研究会に依頼して行事食の料理教室を実施していたが、行事食研究会の会員数減少や高齢化などの理由により、年度途中から千歳町のくらしゴトLaboに依頼している。行事食から料理内容が変わったことで試作の回数や材料費に係る経費が減少したものである。

<山木委員>

令和5年度開催の食フェスタは、天候が悪かったこともあるが来場者数が少なかった。農業公園で開催されていたアグリフェスタの方がにぎわっていたかなと思うが、食フェスタとして開催される理由は。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

アグリフェスタでは会場となる農業公園のアクセスの問題が大きく、駐車場の確保に苦労していた。離れた駐車場からバスを出すなどの対応もしていたが、来場者からは駐車場がないことやアクセスが不便であるといった意見が多かった。そのため、

にぎわいづくりを目的に肉フェスと統合し、アクセスしやすいかめきたサンガ広場で開催したものである。結果として天候の問題もあり来場者数は想定よりも少なかったが、日程などを再検討の上で令和6年度も開催したいと考えている。

<山木委員>

肉フェスはかなり集客力の高いイベントであったので、肉フェス単体で実施される方がよかったのではないか。またアグリフェスタは農業公園周辺地域のにぎわいにもつながるイベントであった。そういったことも含めて再検討いただきたい。これは要望としておく。

<齊藤委員>

食フェスタの出店料は。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

出店料はいただいている。

<齊藤委員>

出店料は徴収すべきではないのか。

<産業観光部長>

これまでからアグリフェスタや肉フェスでも出店料はいただいております、その代わりとして商品の価格を下げてほしいと出店者をお願いしてきた。価格が高いと市民に来ていただきにくいとため、他のイベントでの価格設定や出店料なども踏まえて検討していきたい。また令和5年度においては、事業のスクラップアンドビルドとして同じような内容の肉フェスとアグリフェスタを統合した食フェスタを開催したが、確かに肉フェスよりもインパクトが少なかったと感じている。令和6年度も食フェスタとして、市民に喜んでいただけるようなイベントとなるよう開催方法を検討していく。

<齊藤委員>

商売として出店されて亀岡市が集客しているのであれば、出店料は徴収すべきであるので検討いただきたい。これは要望としておく。

<法貴委員>

食農ブランド事業経費の地元産食材利用推進事業の実施回数は。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

小学校では年9回、保育所では年4回実施する。

<法貴委員>

事業を実施する際には、子どもに対して地元産の食材であるということを周知されているのか。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

給食のメニューや食材が掲載される給食だよりにおいて当該給食の日を周知している。また、地元産食材にちなんだコラムを農林振興課で作成し掲載いただいている。

<法貴委員>

料理塾に関して、令和5年度の開催実績は。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

例年季節ごとに年4回開催しており、令和5年度も4回の開催である。うち1回は3月中に開催予定で、その申込者も含めると今年度の参加者は合計91人である。

<木村委員>

食農学習事業を市内全ての学校で実施していない理由は。また事業の内容について説明願う。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

事業の実施希望について市内全ての小学校と保育所に照会し、希望のあった学校・保育所で実施している。事業内容は学校により異なるが、典型的な流れとしては、地元農家に協力いただいて野菜やお米の栽培から収穫体験を行い、収穫したものを調理して食べるというものである。

<片山副委員長>

有機農業推進事業経費の有機農産物給食利用支援事業について、有機米の生産が拡大しているが、令和5年度と同額で問題ないのか。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

有機農産物給食利用支援事業は米以外の野菜を対象としている。野菜は米よりも規格が細かいこともあり、量がすぐ増えることはないため令和5年度と同じ予算額を見込んでいる。

<片山副委員長>

有機農産物給食利用支援事業については承知した。有機米生産拡大のための経費について、差額の市負担分には国からの補助があるのか。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

今年度と来年度は、ふるさと力向上基金繰入金を基に市から協議会に支出している農業振興補助金と、国からのみどりの食料システム戦略における有機農業産地づくりの交付金が充てられている。国からの交付金は令和6年度で終了予定である。

<片山副委員長>

国の交付金が終了すれば市の単費になるのか。

<農林振興課副課長兼有機・食農推進係長事務取扱>

そのとおりであるが、米の生産量が増えている中で、国からの交付金が占める割合は非常に低くなっている。そのため交付金が終了しても大きな影響はないと考えている。

<齊藤委員>

農業担い手づくり育成事業経費において新規就農者に対する補助メニューが複数あるが、1人が重複して補助を受けることは可能なのか。

<担い手支援係長>

基本的には重複して受けることはできない。なお、農業次世代人材投資資金と新規就農者育成総合対策事業（経営開始資金）の内容は同じものであるが、交付開始年度によって国の制度が切り替わっており、名称が異なっている。また、就農研修資金償還金助成事業については、平成26年度までに新規就農者が借り入れられた資金に対する償還金の助成である。そのため、一部の方で農業次世代人材投資資金と就農研修資金償還金助成事業が重複している場合もある。

<法貴委員>

農業次世代人材投資資金について、令和5年度予算額から減少している理由は。

<担い手支援係長>

当該事業の対象者は令和3年度までに採択された方であり、給付期間は最大5年間なので、対象者及び経費は今後減る一方である。

<法貴委員>

令和5年度の対象者数は。

<担い手支援係長>

12名の方に交付している。

<片山副委員長>

農業担い手づくり育成事業経費における新規就農者への支援について、支援が終了した後の自立が課題であると聞く。支援された後の経過などを把握しているのか。また、支援終了後の経過などを踏まえた今後の支援方法について所見は。

<担い手支援係等>

平成23年度以降、給付金を交付していない方も含めて約80名が亀岡市内で新規就農されたと把握しており、給付金を交付した方についてはその後の営農状況を確認している。国においても経営開始資金の給付終了後1年間の営農状況を確認されており、その間に亀岡市内において離農された方はいない。給付終了後2年目以降は調査できていないが、把握している範囲では経営開始資金を今まで46名に給付しており、そのうち43名は営農を継続されているが、体調などの個人的な事情により3名が離農されている。今後の支援について、近年有機農業への関心が高まる中で、有機関係の研修会等の開催について要望が多かった。亀岡オーガニック農業スクールの開校により有機に関して指導できる体制が整ったため、今後は有機農業も含めてフォローを続けていきたいと考えている。

<齊藤委員>

多面的機能支払推進事業経費について、亀岡市内の農地全てが対象なのか。

<担い手支援係長>

全ての農地が対象である。

<齊藤委員>

農地を所有していれば組織でなくてもよいのか。

<担い手支援係長>

個人ではなく、地域における組織が対象である。

<齊藤委員>

組織のない地域はあるのか。

<担い手支援係長>

一部あるとは聞いている。

<法貴委員>

畜産振興関係経費の亀岡牛広報パンフレットについて、印刷部数と配布先は。

<農林振興課長>

1万部印刷する予定であり、市外に情報発信することができるイベントに参加する際に活用し、亀岡牛のブランド化につなげていきたいと考えている。

<法貴委員>

令和5年度の補正予算として、飼料価格高騰のための畜産緊急支援事業助成金を実施されていたが、令和6年度当初予算には計上されていないのか。

<農林振興課長>

国からの交付金を財源に実施した事業であるが、令和6年度当初予算には計上していない。

<法貴委員>

国から交付金が出ることになれば補正予算として計上される可能性もあるのか。

<農林振興課長>

その方向で考えている。

<木村委員>

亀岡牛安定供給体制推進事業助成金の内容は。

<農林振興課副課長兼営農推進係長事務取扱>

亀岡牛の屠畜された実績に応じて支給するものである。

<産業観光部長>

HACCP導入のため衛生基準を上げる必要がある中で、特に亀岡牛についてはブランド牛として衛生基準をより上げるため、頭数に応じた助成を行うものである。

<木村委員>

HACCPの基準を上げるための費用という認識でよいのか。

<産業観光部長>

そのとおりである。

<片山副委員長>

農地中間管理事業推進経費について、令和5年度は集積協力金として大きな金額が計上されていたが、令和6年度は新たに取り組む地区はないのか、

<担い手支援係長>

現時点で要望はない。なお、過去に集積協力金を交付した地域についても、さらに集積率を上げていただくことで交付は可能であるので、今後要望があれば補正予算で対応したいと考えている。

<片山副委員長>

今後新たに集積に取り組む地域について目途はあるのか。

<担い手支援係長>

河原林町で検討していきたいという話があると聞いている。

<産業観光部長>

ほ場整備の進捗により地域から要望が出てくる可能性がある。農地集積によるメリットなどを情報提供しながら、農林振興課と農地整備課で連携して取り組んでいきたい。

<小川委員>

畜産振興関係経費における食肉センターの改修について今後の計画は。

<農林振興課長>

追加資料の下段に令和7年度以降に修繕を行う箇所の一覧を示している。例年突発的な修繕が必要になることがあるため、予定にはない箇所を先に対応することもある。

<山木委員>

林業担い手育成事業経費においてプロセッサを導入されるが、使用できる方はどの程度いるのか。

<森林・鳥獣対策係長>

亀岡市森林組合には作業員6名、それ以外に職員が4名いる。これまでもプロセッサはリースで使用されており、作業員も職員も扱うことができる。

<山木委員>

亀岡市森林組合にも新しい方が入られたと聞く。新たな機器を導入したことを発信することで担い手確保にも努めていただきたい。これは要望としておく。

<法貴委員>

鳥獣対策事業経費の有害鳥獣駆除業務委託料について、令和5年度においてもかなり頭数が増えたと認識しているが予算額は変わっていない。適正な金額なのか。

<森林・鳥獣対策係長>

御指摘のとおり、令和4年度と比較して令和5年度は捕獲頭数が1.5倍程度増加し、補正予算により増額させていただいた。他の事業との兼ね合いもあるため、当初予算としては令和5年度当初予算と同額を計上しているが、捕獲状況に応じて補正予算も検討したい。

<法貴委員>

講習会の補助は何名分を見込まれているのか。

<森林・鳥獣対策係長>

6名を見込んでいる。

<法貴委員>

令和5年度と令和4年度の実績は。

<森林・鳥獣対策係長>

令和5年度10名、令和4年度6名である。

<片山副委員長>

令和5年度は防災重点農業用ため池の安心安全マップ作成のための経費を計上されていた。令和6年度当初予算には計上されていないが、マップは完成したのか

<農地整備課長>

令和5年度に完成した。

13:59

<休憩 13:59～14:15>

[産業観光部商工観光課入室]

・第1号議案 令和6度亀岡市一般会計予算（産業観光部所管分）

[説明]

・商工観光課長説明（5款労働費・7款商工費）

14:42

[質疑]

<小川委員>

雇用対策経費のオンラインスキルアップ支援補助金について、支援内容と実績を説明願う。

<商工観光課長>

当該事業は令和3年度から実施しており、国からのデジタル田園都市国家戦略構想補助金で令和3年度から令和7年度の5か年間事業として採択されている。実績としては令和3年度27件、令和4年度6件、令和5年度1件と減少しており、令和7年度までの事業であるためしっかりとPRしていきたい。株式会社クラウドワークスと亀岡市が協定を締結して取り組んでいる事業であり、同社が提供するスキルアップ講座に参加された方に対して受講料を補助している。講座内容も順次拡大されており、講座を受講することで仕事の幅が広がるものと考えている。

<法貴委員>

人材不足で悩まれている中小企業は多く、人材確保は大きな課題となっている。雇用対策経費における個別相談会や企業座談会の開催状況は。

<商工観光課長>

個別相談会は2か月に1回、ギャラリーかめおかで定期的に行っている。企業座談会は1回開催し、今年度は篠町篠企業団地の立地企業と亀岡市長、亀岡商工会議所

会頭、オープンイノベーションセンター・亀岡の職員を含めた意見交換を行った。

<法貴委員>

企業座談会は令和4年度も開催されたのか。

<商工観光課長>

令和4年度も開催しており、製造業を中心に参加いただいた。

<齊藤委員>

オンラインスキルアップ支援補助金について、スキルアップは各個人の賃金アップにもつながると思う。より活用いただけるようPRしてほしい。これは要望としておく。

<山木委員>

商工業振興対策経費のかめおか共創支援プロジェクトについて、既に起業されている方は対象にならないのか。

<商工観光課長>

既に起業されている方に対しては、かめおか共創支援プロジェクトにおいて構築する起業家コミュニティや、オープンイノベーションセンター・亀岡において支援していきたいと考えている。

<山木委員>

かめおか共創支援プロジェクト業務委託料の内容は。

<商工観光課長>

起業家の伴走支援やコミュニティづくりが可能な事業者をプロポーザルにより選定し、1,800万円を上限に業務委託を行うものである。プロポーザルによる選定期間を除き、10か月間支援いただくことを想定している。業務委託の内容は若者を対象としたビジネスチャレンジ事業や、若者と市内事業者や専門家等を結ぶコミュニティづくり、事業に係る成果報告会などである。

<齊藤委員>

プロポーザルで選定した事業者が若者を支援するという認識でよいか。

<商工観光課長>

そのとおりである。

<小川委員>

かめおか共創支援プロジェクトに参加する若者は亀岡市民が対象なのか。

<商工観光課長>

亀岡市民に対して積極的にPRするが、母数が多くないため、最終的に亀岡市で事業を展開いただくことを目標として広く全国にPRしていきたい。

<小川委員>

この事業で育成された起業家が他の地域で事業を展開されることも想定されるのではないか。

<商工観光課長>

そういった懸念もあり、亀岡市における課題などをテーマとして事業にチャレンジいただきたいと考えている。

<小川委員>

事業を通じて亀岡市の魅力を発信いただきたい。また亀岡市民にとって効果があると感じられる事業にしていいただきたい。これは要望としておく。

<法貴委員>

かめおか共創支援プロジェクトを実施することとなった経過は。

<商工観光課長>

産業建設常任委員会で浜松市を視察された報告書を拝見し、イノベーションの風土を定着させるためには若手事業者の育成や地域の起業家に対するコンサルティング及びコミュニティ醸成の必要性を感じていた。また、現在亀岡市ではふるさと納税が好調であるが、今後さらなる増収を目指すためにもふるさと納税をテーマとして取り組み、市内事業者への利益還元にもつなげていきたいと考え、この事業を企画した。

<法貴委員>

令和5年度まで取り組まれていたサンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業とは異なるものなのか。

<商工観光課長>

サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業は特に大学からの問い合わせが多く、そこで得たつながりから今回の若者を対象とした事業に発展している。また、これまで実証支援事業に参加した事業者から亀岡市におけるチャレンジについての講習や、技術提供などをいただきたいと考えている。

<法貴委員>

ぜひ持続可能な事業としていただきたい。これは要望としておく。

<林委員長>

大学との連携について、京都大学など府内の様々な大学へプロモーションいただき、将来有望な若者が亀岡市に集まっていただけをお願いしたい。またオープンイノベーションセンター・亀岡とも連携いただきたい。これは要望としておく。

<齊藤委員>

観光推進経費の湯の花温泉地域総合整備計画（ゆあみのさと）改訂検討委員会（仮称）経費について、市街化調整区域であるが計画改訂により開発に関する基準が緩和されるのか。地域の大部分はハザードマップの関係で開発できないという認識である。

<商工観光課長>

開発可能な範囲の変更や、基準がさらに緩和されることはない。

<齊藤委員>

同じく観光推進経費のLeaf京都・亀岡外国語版は、紙媒体ではなくWEB版を作成してはどうか。

<商工観光課長>

この経費では既に発行しているLeaf京都・亀岡を4か国語に翻訳してWEB上で掲載する予定であり、主な経費は翻訳料である。

<片山副委員長>

商工業振興対策経費の産官学連携事業補助金について、亀岡市からの補助金とオープンイノベーションセンター・亀岡の収入を合わせて事業に取り組まれるものかと思う。補助金で実施する事業とそれ以外の事業とはすみ分けができているのか。

<商工観光課長>

オープンイノベーションセンター・亀岡における令和6年度の予算計画としては、本市からの補助金3,000万円とオープンイノベーションセンター・亀岡の自主事業収入800万円を合わせた3,800万円の事業費を予定している。人件費及び維持管理費、コワーキングスペースの改修費に亀岡市の補助金を充てる計画である。

<片山副委員長>

維持管理費の光熱水費などはオープンイノベーションセンター・亀岡分のみを負担

されるのか。

<商工観光課長>

光熱水費や警備費については、面積按分でオープンイノベーションセンター・亀岡分を算出している。京都先端科学大学京都亀岡キャンパス全体の敷地面積に対するオープンイノベーションセンター・亀岡の面積割合で按分している。

<片山副委員長>

観光推進経費の亀岡市観光協会運営費補助経費について、令和5年度当初予算額から2,000万円増額している理由は。本来、観光協会は独立採算により自前で運営されるべきだと思うが、亀岡市観光協会の運営状況はどうなっているのか。

<商工観光課長>

亀岡市観光協会運営補助経費については、令和5年度予算では亀岡市観光協会準職員の賃金や社会保険料等を観光おもてなし環境整備事業委託料に計上していたが、令和6年度予算から観光協会運営補助経費へ一括して計上することとなったため増額したものである。また定期昇給に係る人件費の増加分も含まれている。運営状況について、かめまるマートでは人件費も含めて全てかめまるマートの売り上げで運営されているが、かめまるマート以外の亀岡市観光協会においてはプロパー職員6名分と準職員8名分の人件費を賄える収入がないのが現状である。

<法貴委員>

バルーンフェスティバルの予算は計上されているのか。

<商工観光課長>

生涯学習部で計上されている。

<法貴委員>

オープンイノベーションセンター・亀岡の予算について、支出項目ごとの算出根拠などの明細は資料として示していただきたい。これは要望としておく。

<木村委員>

オープンイノベーションセンター・亀岡におけるEV研修や森林管理GX研修などの研修事業は有料で行うのか。

<商工観光課長>

そのとおりである。

<木村委員>

受講料は決まっているのか。

<商工観光課長>

詳細は決まっていない。

<木村委員>

EV研修における保険会社アジャスター等専門職向けの研修はどこの保険会社に向けたものなのか。

<商工観光課長>

三井住友海上火災保険である。

<小川委員>

観光推進経費の森の京都DMO負担金について、支出する金額に対する効果がないように感じる。事業成果について説明願う。

<商工観光課長>

森の京都DMOには地域の稼ぐ力を創造する役割を担っていただいている。現在はインバウンド観光客向けの歴史や文化、農業などの体験型観光商品の開発に積極的に取り組まれており、特に刀鍛冶関係の旅行商品は予約が取れないほど好評である

と聞いている。他にも陶芸や竹細工、藍染めなどが好評で国内外に発信いただいている。また教育旅行として、亀岡市含む森の京都エリアにおいて、東山中学校の生徒162人が日帰りで農業体験を行われたほか、台湾の高校生150人がホームステイされた。教育旅行は大人になってからの再訪や移住定住のきっかけになることもあるため、重要なターゲット層として位置づけられている。今後開催される大阪・関西万博や全国都市緑化フェア in 京都丹波においても、森の京都DMOと協力して亀岡市をプロモーションしていきたいと考えている。

<小川委員>

亀岡市内の匠ビレッジや川の駅・亀岡水辺公園などの拠点、亀岡市観光協会などとも連携いただき、負担金分の効果を発揮できるようにしていただきたい。これは要望としておく。

<齊藤委員>

ホームステイの受け入れ側としては準備のために費用がかかる。寝具のリースなどを補助することで受け入れ先の拡充につながると考えるがどうか。

<商工観光課長>

寝具は衛生用品でもあり、個人宅で管理いただくのは難しいと感じている。森の京都DMOから補助されているため、ぜひ活用いただきたい。

<片山副委員長>

かめおか共創支援プロジェクトとオープンイノベーションセンター・亀岡はどのように連携していくのか。

<商工観光課長>

かめおか共創支援プロジェクトとオープンイノベーションセンター・亀岡はしっかりとリンクさせていきたい。オープンイノベーションセンター・亀岡は既に起業されている方、かめおか共創支援プロジェクトはこれから起業される方といったすみ分けを考えている。

<木村委員>

保津川有償舟運安全対策協議会経費について、協議会において有事の際の補償に備える予定はあるのか。

<産業観光部長>

保津川遊船企業組合をはじめ各事業者において個々に保険に加入されており、何かあった際には各事業者の責任となるため協議会で対応するものではない。そして各事業者において安全確保に関する一定の基準を持っておられる。協議会では事業者や関係機関が連携した安全対策に取り組んでいきたい。

<木村委員>

保津川遊船企業組合に対しては、保津川下りが亀岡市の三大観光であるという理由から事故後に補助金を交付している。今後運営できないような状況に陥らないようにお願いしたい。また京都市との連携や林道整備などについても協議会で検討いただきたい。これは要望としておく。

<片山副委員長>

保津川有償舟運安全対策協議会は今後どのように運営されるのか。商工観光課が事務局となるのか。

<産業観光部長>

基本的には亀岡市に事務局を置くこととしているが、内容によって役割分担していきたいと考えており、本日実施された合同水難救助訓練は京都中部広域消防組合が主体となって取り組んでいただいた。協議会の中に部会を置くことも検討してい

たいと考えている。

<林委員長>

平和祭花火大会事業補助金を交付している亀岡平和祭保津川市民花火大会について、昨年度の検証結果も踏まえて次の開催方法を検討しているのか。

<商工観光課長>

令和5年度は安全対策に重きを置いて花火大会を開催した。次の開催では、より観覧いただきやすい座席の配置や、多目的トイレの設置などについて検討していきたい。またリユース食器の回収率向上のため、エコステーションの配置なども見直したいと考えている。

<片山副委員長>

保津町自治会で花火大会についてアンケートをとられていたと聞くと、何か意見はあったのか。

<商工観光課長>

アンケートのような形ではなく一部の住民から意見を聞いたと聞いているが、違法駐車が無くなり見やすかったという意見が多かったとのことである。

<小川委員>

花火大会に関して、各自治会からの募金は令和6年度も実施するのか。

<商工観光課長>

市民募金として令和6年度も実施する予定で考えているが、色々な意見を聞きながら検討していく。

<小川委員>

地域により温度差もあり、花火大会実行委員会でも収益を得ているため、廃止についても検討いただきたい。

<山木委員>

有料観覧席の料金は令和5年度と同程度で検討されているのか。

<商工観光課長>

金額は現在検討中だが、輸送量や人件費も高騰しているため、高騰分は価格転嫁させたいと考えている。

<山木委員>

VIP席のチケットから完売した傾向があると思う。高価格の観覧席から値上げしてはどうか。

<商工観光課長>

御意見も参考にして市民に喜んでいただける花火大会になるよう考えていきたい。

<法貴委員>

天候の問題で花火大会が中止になった場合は補正予算などで対応するのか。

<商工観光課長>

保険に加入しているため、中止になった場合でも追加の経費は発生しない予定である。

15:44

【市長質疑項目の抽出検討】

<林委員長>

これから市長質疑項目の抽出検討を行う。ただいま担当部から説明を受けたが、市長質疑項目抽出に当たってはなお疑義があるもの、掘り下げ審査すべきもの、議案の賛否に影響するもの、また審査中に質疑を行ったものを基本として抽出す

る。それでは市長質疑項目として抽出すべき項目があれば、その項目が掲載されている資料のページ数及び論点を明確にして発言願う。意見はあるか。

<小川委員>

11ページ、商工業振興対策経費のかめおか共創支援プロジェクト業務委託料について、市長の思いを確認したい。

<山木委員>

同じくかめおか共創支援プロジェクトについて、若者や起業家を支援することは大切だと思う。このプロジェクトが新しい産業につながっていくのか聞きたい。

<齊藤委員>

かめおか共創支援プロジェクトでは亀岡市外からも事業者を呼び込んでほしいと考えている。そういったことも含めて今後の展望を確認したい。

<木村委員>

オープンイノベーションセンター・亀岡でスマートアグリハウスが完成することもあり、今後の取組に期待している。かめおか共創支援プロジェクトがオープンイノベーションセンター・亀岡の取組とどのように連携していくのかを確認したい。

<林委員長>

委員からの意見に対して、理事者から追加説明はあるか。

<産業観光部長>

起業家への支援について、事業者から販路開拓や新商品開発への伴走支援について要望があり、ブレインストーミングにより学生の意見を取り入れた新商品開発を行っている。今後この取組をさらに展開させていきたい。またスマートアグリハウスは3月下旬に完成予定であり、農業者などからの問い合わせも増えてきている。オープンイノベーションセンター・亀岡を通じて就農者と京都先端科学大学バイオ環境学部の教授がつながった事例もあり、今後も事業者における新規事業の取組を支援できるよう取り組んでいきたい。

<林委員長>

部長から追加説明もあったが、商工業振興対策経費を市長質疑項目として選定したい。論点としては、かめおか共創支援プロジェクトについて、今後の展望をどのように考えているのか、またオープンイノベーションセンター・亀岡の取組とどのように連携していくのか、ということによいか。

(全員了)

[産業観光部退室]

15:55

<林委員長>

当分科会では、まちづくり推進部、上下水道部の審査もあるため、そこから抽出する可能性もある。今、提案された1点を一旦ピックアップしておいて、その後に、一定整理をさせていただきたいと思う。それでは、本日の日程はここまでとし、明日は午前10時から分科会を再開して、一般会計、特別会計、企業会計の審査を行うのでよろしくお願いする。これにて散会する。

～散会16:00